



被災者を最優先に 復興を加速

南阿蘇村長

吉良

清一

明けましておめでとうございます。
村民の皆さまには、健やかに新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。

また、日頃から村政の運営に対し、温かいご支援、ご協力を賜り心からお礼申し上げます。
平成28年4月に村を襲った未曾有の大地震から1年9カ月が経ちました。いまだに大きなダメージを受けインフラなどについては、一昨年の俵山トンネルルートの応急復興に続き、昨年8月の長陽大橋ルートの復旧により、少しずつではありますが確実に歩みを進めています。

しかし、一方で住まいの確保については、家屋の解体・宅地の復旧は一定の進捗を見えています。住まいの再建、災害公営住宅の建設は緒にたばかりであり、仮設住宅やみなし仮設住宅などで不自由な生活を強いられながら、2回目の新年を迎えられた多くの皆さまの大変なご苦労とご心労を思います。被災者の住まいの確保を最優先に取り組みねばならないと決意を新たにしております。更にこれから、人口流出や観光客の回復、農地の再生といった復興に向け、取り組みを加速させていかなければなりません。

私は、昨年2月の村長選挙において、村民の皆さまのひとかたならぬご支援とご厚情を

賜り、南阿蘇村長に就任させていただきました。
私が目指す村づくりは「きらめきプラン」として、「活力」、「環境」、「暮らし」の3つのキーワードから、むらづくりの理念を掲げております。

1つ目の活力は「農業が元気なむらづくり」、「魅力ある観光資源の創造」、「移住定住促進」をテーマにむらづくりを推進いたします。
2つ目の環境は「水を育む南阿蘇」、「自然の魅力を引き出す」をテーマにむらづくりを推進いたします。

3つ目の暮らしは「ごども」、「お年寄り」、「生活基盤」をテーマにむらづくりを推進いたします。

いずれのむらづくりも、昨年、各行政区で実施しました住民座談会において、村民の皆さまのお話を伺うとともに、村の実情をしっかりと説明させていただくことから始まるものと考えております。

今年も折に触れ、村の皆さまと対話する機会を設け、ご意見を伺いながら皆さまとともに村政に推進してまいります。

最後になりますが、新しい年が村民の皆さまにとりまして、実り多い幸せな一年となりますよう、心からお祈り申し上げ新年のごあいさつとさせていただきます。